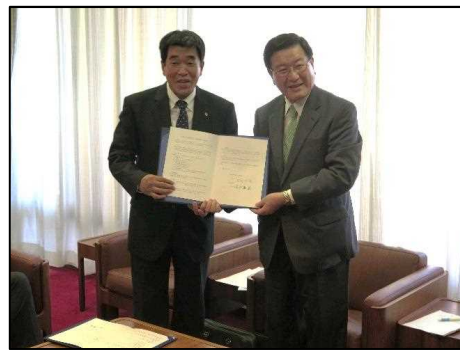


学報

2018年11月 Vol. 735



多治見市と連携に関する包括協定を締結

ソウル科学技術大学校（韓国）学長らが森脇学長を表敬訪問	01
Gu コンポジット研究センター開所式を開催	02
平成30年度秋季岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）入学式を挙	03
岐阜県博物館・岐阜大学連携企画 移動展「天然記念物の祖 三好学」を開催	04
多治見市と連携に関する包括協定を締結	05
平成30年度第7回学長記者会見を実施	06
応用生物科学部公開講座「中学生のための体験科学講座」開講	07
シンポジウム「発達障害学生支援における大学と地域の連携の実際」を開催	09
岐阜大学未来セミナーを開講	10
大学院連合農学研究科が「The 6th UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2018」を開催	11
後学期第1回目の English Circle of Friends を開催	13
アッサム大学（インド）Sanjib Kumar Panda 教授が森脇学長を表敬訪問	14
バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）副学長らが森脇学長を表敬訪問	15
平成30年度 東海・北陸ブロック COC+推進コーディネーター会議及び中部地区 COC 事業採択校情報交換会を開催	16
産学官連携人材育成・定着プロジェクト「企業実習」のバス出発式を挙	17
岐阜大学産学連携フェア 2018 開催	18
ロボコンサークルが『おおがき未来フェスティバル』へ出展	19
マレーシア国民大学（Universiti Kebangsaan Malaysia）との協定署名式及び在マレーシア日本国大使館を訪問	20
第70回岐大祭を開催	21
岐阜大学地域協学センターと東京海上日動火災保険株式会社岐阜支店が地域活性化に向けた協働教育の推進に関する協定を締結	23
保育園児がハロウィンの仮装で学長室を訪問	24
2018年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催	25
表彰受賞者	27
外国人研究者の受入	28
産官学連携の実施状況	29
メディア掲載一覧	30
諸会議	36
主要日誌	38
人事異動（学内限定）	39

ソウル科学技術大学校（韓国）学長らが森脇学長を表敬訪問

10月2日（火）に、韓国のソウル科学技術大学校から Jong Ho Kim 学長、Si Tae Won 工学部長、Hwang Il Nam 秘書の3名が森脇学長を表敬訪問した。学長表敬には鈴木理事（国際・広報担当）、佐々木実工学部教授、野々村国際企画調整役が同席した。Jong Ho Kim 学長らと森脇学長は10月1日（月）に大垣に本社を置く「大垣精工株式会社」の創立50周年記念式典に参加し、同社の横山義典氏が通訳として同席した。

ソウル科学技術大学校は、韓国の工業教育発祥の学校であり、1910年の創立以来、産業界のニーズに応える教育を通じて、各分野の専門家を輩出してきた。

懇談の中で、Jong Ho Kim 学長からソウル科学技術大学校で行われている留学生受入プログラムの紹介があり、今後、本学との大学間協定を活かして学生や研究者の交流をより活発に行っていきたい旨の話があった。また、森脇学長からは両大学は着実に交流を積み重ねてきており、今後もソウル科学技術大学校との交流を大切にしていきたい旨の話があった。

表敬訪問後、Jong Ho Kim 学長らは本学のスマート金型開発拠点を見学した。

本学とソウル科学技術大学校は、今後も様々な分野で交流していくことが期待される。



訪問の様子



前列左から 森脇学長、Jong Ho Kim 学長、Si Tae Won 工学部長

後列左から 佐々木教授、鈴木理事、横山義典氏、野々村国際企画調整役

Gu コンポジット研究センター開所式を開催

10月3日（水）に「Guコンポジット研究センター開所式」を開催した。

本センターは、ものづくり分野研究拠点として、分子の集合体から繊維と樹脂の複合体までマルチスケールに複合材料（コンポジット材料）を研究することを目的とて開所された。

センターは武野明義センター長を含め56名の研究スタッフが物質化学、生命化学、機械工学から医学に至る複合領域を網羅可能な研究体制によりテーラードマテリアル&デザインによる少量多品種のものづくりを確立し、航空機、自動車などの軽量部材にとどまらず、人体に関わる複合材料の開発を進める。

開所式では、来賓の岩田則子経済産業省中部経済産業局産業部長ほか から挨拶があり、森脇学長をはじめ、理事等の大学幹部、研究者、学生などに加え、コンポジットハイウェイ コンソーシアム（東海北陸地区を中心とする高等教育機関や公設試等）や企業の関係者を含め、約220名が出席した。

また、金子靖仙ミズノ株式会社研究開発部長のほか2名による記念講演が行われた。

開所式後の交流会では、研究者と来賓及び参加者との情報交換が活発に行われた。

今後、本センターではアカデミックな面だけでなく、企業連携を重視し、ユニークで使用できる研究を進める。



挨拶する森脇学長



概要説明する武野明義センター長

平成30年度秋季岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）入学式を挙行

平成30年度秋季岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）入学式を10月5日（金）に連合大学院研究棟6階合同ゼミナール室において行った。

入学式では、千家連合農学研究科長から「高度な技術を培い、専門分野における指導者となれるよう全力を尽くしてください。また、日本の文化を深く理解し、日本人との強い絆を築いてください。近い将来日本と皆様の母国、そして世界の懸け橋となるよう祈っています。」と新入生11名（インドネシア（8名）、バングラデシュ（1名）、ベトナム（1名）、中国（1名））への激励の言葉を述べた。



〈中野専任教員によるガイダンスの様子〉



〈新入生による自己紹介〉

岐阜県博物館・岐阜大学連携企画 移動展「天然記念物の祖 三好学」を開催

10月10日（水）から岐阜県博物館・岐阜大学連携企画 移動展「天然記念物の祖 三好学」が開催された。岐阜県博物館は岐阜県内各地で移動展やワークショップを開催し、時代の変化や社会のニーズに応じた「新たな博物館」を県内展開している。

今回の移動展の「三好学（1862～1939）」（岐阜県出身）は日本の近代化が急速に進められた明治時代、自然景観や名木、巨樹などの貴重な天然物が破壊され切り倒されるのを危惧し、法律をもって保護すべきであるという思いを説いた人物である。

近代日本の植物学のパイオニアである三好学は、植物生理学を日本に導入し、その発展に貢献した。さらに、植物生態学をはじめ、桜に関する研究報告など数多く残している。

9日（火）には移動展が開催されるにあたり、平井岐阜県博物館館長、森脇岐阜大学学長から挨拶があった。

平井岐阜県博物館長は「岐阜大学職員・学生にこの企画を通して博物館を身近に感じてもらいたい」、森脇学長は「創立70周年記念を機に、学内に散在している貴重なお宝を収蔵するキャンパスミュージアム計画の引き金となる企画である。」と挨拶した。

このような大学のスペースを使用して、岐阜県博物館による移動展を行うのは初めてになる。

岐阜県博物館・岐阜大学連携企画 移動展「天然記念物の祖 三好学」

期間 平成30年10月10日（水）～11月12日（月）

会場 岐阜大学図書館2階 エントランスホール

開館時間 平日9時～21時30分、土曜日10時～18時

ただし、10月25日（木）26日（金）は9時～17時



挨拶をする森脇学長



学芸員より展示品の説明を受ける参加者

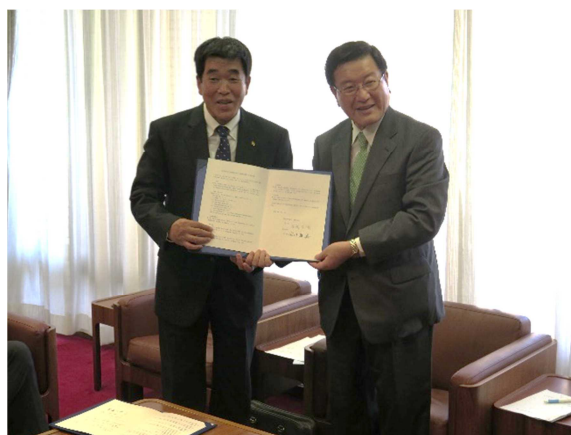
多治見市と連携に関する包括協定を締結

本学と多治見市は、10月9日（火）に教育や健康、市街地の活性化等、8項目の包括的な協定を締結した。

平成22年2月に本学と多治見市は、産官学連携に関する協定を締結し、産業振興での協力を進めてきたが、これに加えて本協定は、本学と多治見市が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としている。なお、本学が地方自治体と包括連携協定を締結するのは24件目である。

協定締結式では、森脇学長より「今回の包括連携協定をきっかけにして益々大学と多治見市との連携を深くし、優秀な人材を育てる方向に動いて参りたい。」と、古川多治見市長からは「この連携を実行・実践し、この成果が人口問題についてストップをかける、あるいは人口増加へ向かっていくことを強く期待している。」と挨拶があった。

今後、本学と多治見市は、地域振興等について協議を進めていく予定である。



協定書を手にする森脇学長（右）と古川市長

平成30年度第7回学長記者会見を実施

本学は、10月10日（水）に、平成30年度第7回学長記者会見を実施した。

今回の会見では、森脇学長から「第35回岐阜シンポジウム ～岐阜大学の芸術・文化に浸ろう！～」について、「岐阜大学の将来ビジョン」と関連させて説明を行い、次いで野村教育学部教授からシンポジウムの概要、キャンパス内の美術作品について、次いで須山教育学部准教授から岐阜大学アーカイブ構想について、最後に山本教育学部准教授よりキャンパスのユニバーサル・デザインについて説明した。

岐阜シンポジウム当日はオープニングとして本学教育学部音楽教育講座の先生方が作曲した「みのり～郡上節から岐阜大学愛唱歌へ」を演奏した後、第1部として岐阜大学の美術作品を野村教授ほか美術教育講座教員で講評する。

第2部ではアーカイブ構想、ユニバーサル・デザイン、キャンパス改造構想について研究成果の発表とシンポジウムを行い、最後に「岐阜大酒」名称募集コンテスト結果発表を行う予定である。

アーカイブ構想として、図書館に学術アーカイブの中核となるアーカイブ・コア アクティブゾーンを設置し、教員、学生、地域の方々が企画する展示会を開催することで多様な文化学術活動を推進するスペースをつくる。

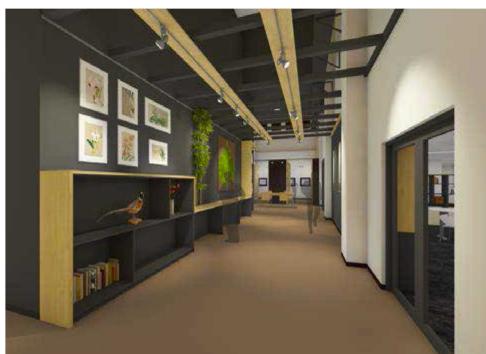
また、本学が所有する様々な貴重な資料を集約、活用する「見せる収蔵庫」を設置する予定である。



説明する森脇学長



記者会見の様子



「見せる収蔵庫」完成予想図

応用生物科学部公開講座「中学生のための体験科学講座」開講

我が国では、科学技術立国を目指しながらも、子供達の理科に対する意識は、国際平均と比較して依然として低い結果が出ている。応用生物科学部では、生命科学分野の体験型学習を通じて中学生に理科への興味・関心を深めてもらうことを目的とし、10月13日(土)に応用生物科学部公開講座「中学生のための体験科学講座」を開講した。

岐阜県下の中学校を中心に、生徒20名、保護者13名の総勢33名の参加があり、『小さな世界を覗いてみよう』(応用生命科学課程)、『卵の科学ー食べる前に観察してみようー』(生産環境科学課程)及び『野生動物の個体数や年齢を推定してみよう!』(共同獣医学科)の3講座に分かれ、大学教員指導の下、身の回りに生息する微生物の観察、ニワトリの卵を用いた黄身・卵白・卵殻の計測観察、野生動物の歯の薄片観察による年齢推定などを行った。中学生は、目の前で起こる現象の“不思議”や“疑問”に対して、講座教員へ積極的に質問するなど、有意義な理科実験を体験した。

当講座修了にあたり、杉山学部長から受講者一人ひとりに修了証書が授与された。

中学生と保護者の一部は、学食で昼食をとる学食体験ツアー、附属農場・附属動物病院などのキャンパス見学に参加し、学生生活の一部にも触れた貴重な体験の場となった。

<当日の様子 ※次ページ>

写真左上：開講式の様子

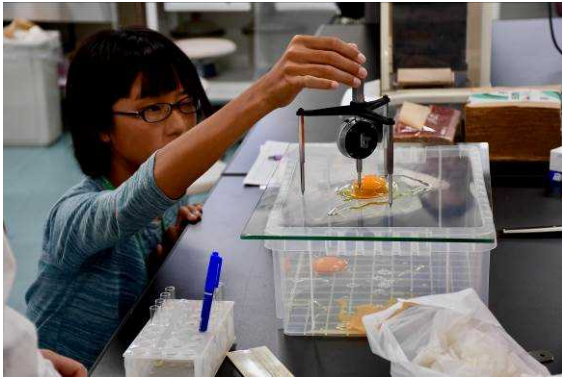
写真右上：『小さな世界を覗いてみよう』講座の様子

写真左中：『卵の科学ー食べる前に観察してみようー』講座の様子

写真右中：『野生動物の個体数や年齢を推定してみよう!』講座の様子

写真左下：閉講式(意見交換会)の様子

写真右下：修了証授与の様子



シンポジウム「発達障害学生支援における大学と地域の連携の実際」を開催

本学は10月14日（日）、堀田亮助教（保健管理センター）と川上ちひろ併任講師（医学教育開発研究センター）は、シンポジウム「発達障害学生支援における大学と地域の連携の実際」を開催した。

発達障害学生支援に関するシンポジウムは、昨年度より開催しており、今年度は継続、発展した内容を提供できるよう、発達障害学生支援に関する障害保健福祉サービスや体制整備支援事業の紹介、修学・就労支援の事例紹介を中心とした内容を企画した。

当日は大学教職員のみならず、教育、行政、福祉関係者など、97名もの参加があった。

前半のシンポジウムでは、最初に、企画代表者である堀田助教が企画趣旨の説明を行った。話題提供として、加藤永歳氏(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室)が「発達障害学生支援に関する障害保健福祉施策の動向」を、船越高樹特定准教授（京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム 高等教育アクセシビリティプラットフォーム）が「高等教育アクセシビリティプラットフォーム事業の概要」を、河村あゆみ氏（本学 障害学生支援室）が「発達障害学生の在学中支援事例」を、松本知子氏・田邊裕貴氏（株式会社ゲオビジネスサポート）が「発達障害学生の受け入れ事例」を行った。また、柴橋正直氏（岐阜市長）からも岐阜市の障害者支援に関する挨拶をいただいた。

後半のグループディスカッションでは、4～6名の小グループで、発達障害学生支援に関する情報交換や、支援計画の立案を行いました。シンポジストに対する質問も多く出て、活発な議論が交わされた。

発達障害及びその傾向のある学生が、大学で必要な支援を受け、安心して大学生活を送り、就職活動をしていくためには、大学内外の支援者が連携・協働体制を構築しながら、共通認識・目標を持ち、互いの強み・特徴を知り、支援していくことが欠かせません。本シンポジウムでは、様々な立場の支援者が一堂に会して議論ができ、大変有意義な機会となった。

今後もこのような活動を継続、発展させていく予定である。



シンポジウムの様子



グループディスカッションの様子

岐阜大学未来セミナーを開講

10月9日（火）から本学の主任、係長のうち18名を対象に平成30年度岐阜大学未来セミナーが開催されている。

これからの大学職員には、教育研究支援だけでなく大学の理念を理解・共有し、教員とともに大学のミッションを達成していく存在となることが求められる。そのためには、大学職員として求められる資質・能力とは何かを考え、主体的にそれらを身に付けていく必要がある。

本研修は、未来の本学の発展を担う職員にとって欠かせない知識として、多様なミッションや大学と社会の関わり等、「岐阜大学の現在の姿」について、学長と各担当理事から直接説明を受け、広い視野と主体的な自己研鑽の姿勢を養うことを目的としている。

10月15日（月）に行われたセミナーでは森脇学長から18歳人口が減少し続ける中、高等教育における進学率の現状と大学入学者の構造変化に対応する岐阜大学の取り組みについて本学の将来ビジョンを用いて講義を受けた。

森脇学長からは、今後、現時点で本学にないものを生み出し、ブランド価値を高め、これまで岐阜大学に関心のなかったハイエンドの学生を取り込んでいくことが必要である等の話があった。

セミナー後には、研修参加者から森脇学長に質問があり、活発に意見を交わすことができた。



説明する森脇学長

大学院連合農学研究科が「The 6th UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2018」を開催

本学大学院連合農学研究科（博士課程）は、10月16日（火）に南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム（日本を含む南部アジア地域8カ国18大学）（以下、IC-GU12 という）への新規加盟を希望する2大学（バングラデシュ農業大学、マリアノ・マルコス州立大学）による「The 6th UGSAS-GU Roundtable」（第6回農学系博士教育国際連携円卓会議）（以下、ラウンドテーブルという）、翌17日（水）・18日（木）に海外のアカデミアで活躍する本研究科修了生の若手研究者を中心とした生物・農学系シンポジウム「The 6th UGSAS-GU International Symposium on Animal Production and Conservation for Sustainable Development 2018」（以下、シンポジウムという）を開催した。

16日（火）のラウンドテーブルでは、JR 岐阜駅前のじゅうろくプラザにおいて、加盟校の副学長やリエゾン教員を含む総勢58名の出席のもと、IC-GU12 新規加盟大学2校の加盟調印式や「農学系博士教育の質の保証と社会貢献の向上を目指す国際連携活動」の一環である「ダブル PhD ディグリープログラム」と「サンドイッチプログラム」の進捗状況等についての総合討論が行われた。



ラウンドテーブル参加者集合写真



千家連合農学研究科長の歓迎スピーチ



鈴木副学長・理事（国際・広報担当）の挨拶



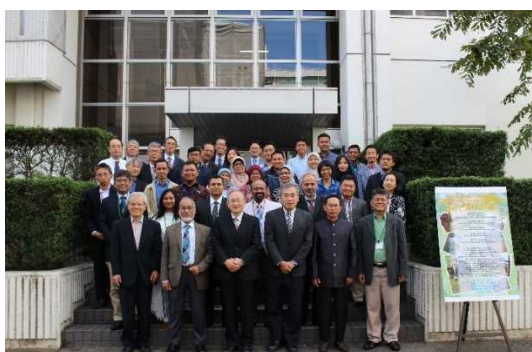
ラウンドテーブルの様子



IC-GU12 新規加盟調印式

17 (水)・18日 (木) のシンポジウムでは、本学連合大学院棟において、2日間延べ112名の参加のもと、動物の生産性を支配する諸事項をテーマに国内の研究者5名の基調講演及び国内外の研究者13名の研究発表が行われ、より深い研究討論を行った。なお、当日は構成大学の静岡大学農学部へテレビ会議システムによる映像配信が行われ、静岡大学配置の本研究科学生も活発な質問を行った。

18日 (木) 午後から本学の流域水環境リーダー育成プログラムと共催にて、参加者61名のもと、学生26名によるポスターセッションが行われ、優秀発表学生4名にポスター賞が授与された。



シンポジウム参加者集合写真



修了生の発表



シンポジウム質疑応答



ポスターセッション発表者集合写真

後学期第1回目の English Circle of Friends を開催

グローバル推進本部では、毎月2回程度、昼休みの時間帯にランチを持ち寄って様々なテーマについてディスカッションを行い、英会話を通じて、仲間を作りながら実践的な英語力を身に付けることを目的とする English Circle of Friends を実施している。

10月17日(水)の English Circle of Friends は、後学期第1回目の開催となり、Introduction Bingo というゲームを行った。

このゲームはビンゴ用紙の25の枠に「Do you live alone? (一人暮らしをしているか)」等の質問が書かれており、その質問に対して「Yes. (はい)」と答えた参加者の名前を記入していき、ビンゴを目指すというものである。

ゲーム中では、ビンゴを達成するために、対話相手を積極的に探す姿や、質問に対する答えから新たな質問を生み出し、会話を続けようとする姿が見られた。

今回の English Circle of Friends は、本学の大学間学術交流協定校であるカナダのアルバータ大学にて ESL (English as a Second Language) プログラムを行った学生や現在、本学事務職員向けに開催されている「グローバルマインド醸成研修」受講者等の参加があった。



English Circle of Friends の様子

アッサム大学（インド） Sanjib Kumar Panda 教授が森脇学長を表敬訪問

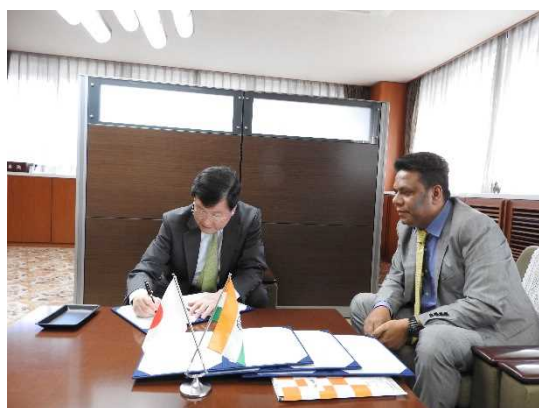
10月17日（水）、アッサム大学から Sanjib Kumar Panda 教授が森脇学長を表敬訪問した。

学長表敬には鈴木理事（国際・広報担当）、千家連合農学研究科長、小山応用生物科学部教授、野々村グローバル推進本部国際企画調整役が同席した。

Panda 教授は、本学連合農学研究科で10月16日（火）に開催された本学大学院連合農学研究科ラウンドテーブル、および17日（水）～18日（木）に開催されたシンポジウムへの出席のために来学され、これに併せて森脇学長を表敬訪問された。

今回の表敬訪問には、ラウンドテーブル出席に加え、本学とアッサム大学との大学間学術交流協定締結のための訪問という目的もあった。Panda 教授は森脇学長がサインした協定書をアッサム大学の学長に届ける役割も担って来訪された。

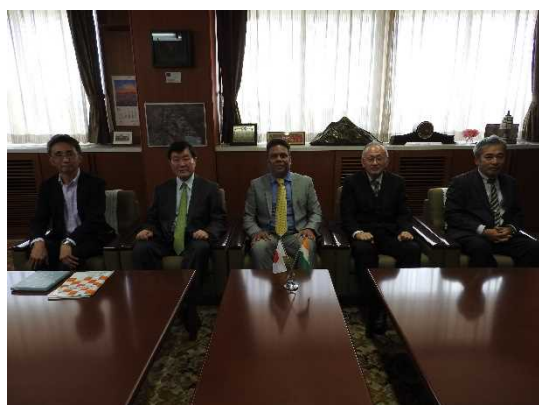
森脇学長は、今後の両校の農学分野での研究者及び学生の連携を歓迎しつつ協定書にサインをし、同協定書を Panda 教授に託した。



大学間学術交流協定にサインする森脇学長（左）と Sanjib Kumar Panda 教授



森脇学長から Panda 教授への記念品贈呈



学長室にて。左から小山教授，森脇学長，Sanjib Kumar Panda 教授，鈴木理事（国際・広報担当），千家連合農学研究科長

バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）副学長らが森脇学長を表敬訪問

10月17日（水）、バングラデシュ農業大学（BAU）から Ali Akbar 副学長が森脇学長を表敬訪問した。

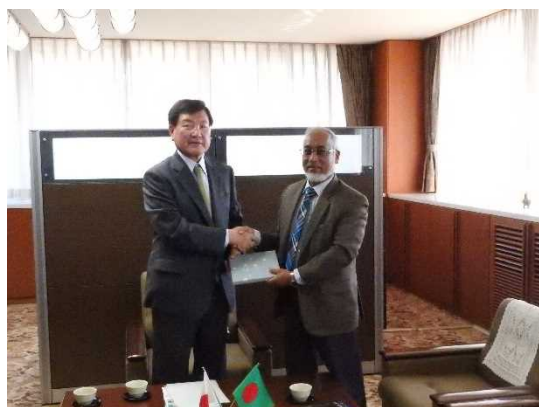
Ali Akbar 副学長は、本学連合農学研究科で10月16日（火）に開催された岐阜大学大学院連合農学研究科ラウンドテーブル、および17日（水）～18日（木）に開催されたシンポジウムへの出席のために来学され、これに併せて学長を表敬訪問された。

学長表敬には鈴木理事（国際・広報担当）、平松連合農学研究科副研究科長（国際担当）、中野連合農学研究科副研究科長（専任教員）、大場同教授、野々村グローバル推進本部国際企画調整役が同席した。また、本学の研究員として在籍する BAU 農学部の Most Hushna Ara Naznin 教授、BAU を卒業し、現在ボンゴボンド農業大学に在籍しており、本学で研究活動中の Umakanta Sarker 教授も同席された。

本学は2001年に BAU と大学間協定を締結して以降、研究者交流を中心に連携関係を継続している。

本訪問では、バングラデシュと日本の大学制度についての情報交換や今後の両校の関係強化について意見交換がなされた。

本学と BAU は、今後も農学分野を中心に交流していくことが期待される。



森脇学長（左）から Ali Akbar 副学長への記念品贈呈。



学長室にて。上段左から大場教授、中野専任教員、平松副研究科長、野々村国際企画調整役。下段左から森脇学長、Ali Akbar 副学長、Naznin 研究員、Umakanta Sarker 教授、鈴木理事（国際・広報担当）。

平成 30 年度 東海・北陸ブロック COC+推進コーディネーター会議
及び中部地区 COC 事業採択校情報交換会を開催

10月18日(木)、本学が幹事校となっている東海・北陸ブロック COC+推進コーディネーター会議を岐阜大学サテライトキャンパスにて開催した。これは平成29年3月に高知大学主催で実施された「全国 COC+推進コーディネーター会議」におけるブロック会議開催の決定を受けて平成29年度から実施しているものであり、東海・北陸ブロックに該当する7つのCOC+事業採択校(富山大学・金沢大学・福井大学・信州大学・岐阜大学・静岡大学・三重大学)、参加校である沼津工業高等専門学校・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学の4校と、当日視察に訪れた高知大学が参加した。

本会議は COC+事業における各地域の課題をより掘り下げて解決につなげていくことを目的とし、第2回となる今回は各校の COC+事業の取組みの進捗状況について情報共有を行い、今回の会議の内容が来年3月開催予定の全国 COC+推進コーディネーター会議で報告されること、次年度以降も引き続き本学が幹事校となって開催することを確認した。

また、続いて中部地区 COC 事業採択校情報交換会を開催した。本情報交換会は平成25年度から本学が幹事校として実施しているものであり、富山大学・福井大学・信州大学・岐阜大学・三重大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学・金沢工業大学が参加した。

各校の COC 事業の成果の発表の後、中部地区 COC 事業採択校学生交流会を今年度も開催することを確認し、全体を通じた意見交換にて、各校の課題への対応状況や今後の計画等について活発な情報・意見交換が行われ、COC 事業採択校情報交換会についても来年度以降も継続して開催することを確認した。



挨拶をする成原統括事業推進コーディネーター



各大学の発表の様子



情報交換会の様子



挨拶をする益川岐阜大学地域協学センター長

産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「企業実習」のバス出発式を挙

10月18日（木）、柳戸会館前ロータリーで、産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「企業実習」のバス出発式を行った。

これは、企業に学生を派遣して生産現場での長期実習を通して実践的な経験を積む工学部の授業科目「機械工学創造演習」の企業実習に先立って行われたものである。

本事業は、岐阜県の「産学金官連携人材育成・定着プログラム」の一環で、県内企業の魅力を伝え地元企業への定着を図る取り組みとしても注目されており、実習には本学工学部機械工学科3年生の学生150名が参加する。

出発式では、県内21企業（前年度に比べ4社増）を代表して（株）ナベヤの岡本 知彦代表取締役社長から「現場で学び、今までの知見を活かす良い機会。県内の中小企業の技術力・マーケティング力を思う存分体感していただきたい。」と激励のメッセージがあった。

代表学生の関 晶真さん（工学部機械工学科3年）は「今までの実習とは異なり、実際の企業で働いている人と関わることができる貴重な機会を活かしたい。」と抱負を述べた。現地実習は約半年間行われ、1月には、成果発表会を計画している。



森協学長による挨拶



関 晶真さん（工学部機械工学科3年）の抱負



（株）ナベヤの岡本 知彦代表取締役社長から記念品贈呈



出発式の様子

岐阜大学産学連携フェア 2018 開催

10月19日（金）～20日（土）にかけて、『岐阜大学産学連携フェア2018』を大垣市総合体育館で『ものづくり岐阜テクノフェア2018』（一般社団法人 岐阜県工業会主催）と同時開催し、産業界の方々やお子様連れの方など多数の参加者があった。

本フェアでは、最新研究成果の紹介を産業界に発信すべく、23もの成果物や紹介パネルを展示した。

当日は、学生や企業などの参加者も各研究成果の説明に熱心に耳を傾ける姿が見られ、県内の学生にも産業界にも本学の研究成果を紹介する良い機会となった。また森脇学長が本学の出展ブースを視察し、各研究内容について質問する様子もみられた。

今回は、本学の研究・技術シーズの発信を通じて、企業ニーズとのマッチングの機会を提供することで、イノベーションを創出し地域産業界への貢献を高めることを目的に開催したが、今後も本学ではこのような活動を積極的に継続して実施する予定である。



展示ブースの様子①



展示ブースの様子②



展示ブースの様子③



森脇学長の視察の様子

ロボコンサークルが『おおがき未来フェスティバル』へ出展

10月20日（土）から21日（日）にかけて開催された『おおがき未来フェスティバル』に、岐阜大学ロボコンサークルが出展した。

本イベントは、大垣市制100周年記念事業として、「未来の子どもたちのために」をテーマに、近未来を感じ、最新ロボットや最先端技術を体験できるとともに、市民総出で祝祭感を創出するため、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しむことができるイベントを目指し大垣市が開催したもので、本学の社会連携活動の一環としてロボコンサークルが出展した。

当日は多くの家族連れが来場し、東海地区交流ロボコンで使用した競技ロボットの操作を体験したり、ロボコン用部品の展示を見たりと大変賑わい、子どもたちへ最先端のロボット技術や大学の活動を紹介する良い機会となった。



ロボコンサークルのブース様子①



ロボコンサークルのブース様子②

マレーシア国民大学 (Universiti Kebangsaan Malaysia) との協定署名式及び 在マレーシア日本国大使館を訪問

10月22日(月)に、マレーシア国民大学 (Universiti Kebangsaan Malaysia / The National University of Malaysia、以下;UKM) と国際ジョイント・ディグリー博士課程プログラム協定書署名式を行った。

UKM はマレーシアを代表する五つの研究大学のひとつであり、首都クアラルンプール (Kuala Lumpur) の南東約 35 キロのスランゴール州バンギ (Selangor, Bangi) に位置します。13 の学部を有する総合大学であり、創立以来、研究やアカデミックなプログラム、コミュニティへの関与と国際化への優れた実績で、様々な国際的な大学ランキングでも常に国内最上位に位置し、マレーシアを代表する最高学府のひとつとして内外から高い評価を得ている。

ジョイント・ディグリープログラムは、連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学で単一の学位を授与するものである。今回の協定に基づき、平成31年4月に、本学大学院工学研究科に岐阜大学・マレーシア国民大学国際連携材料科学工学専攻が開設される予定である(設置申請中)。

署名式では、UKM の Noor Azlan Ghazali 学長が歓迎の祝辞を述べた後、本学の森脇学長がスピーチを行った。その後、UKM の Noor Azlan Ghazali 学長、Mohd Marzuki Mustafa 副学長、岐阜大学の森脇久隆学長、鈴木文昭理事(国際・広報担当)・副学長の4名が協定書へ署名し、記念品の交換が行われた。



協定書に調印する森脇学長、Noor Azlan Ghazali 学長



10月22日(月) 協定調印式の集合写真

10月23日(火)には、在マレーシア日本国大使館を訪問し、折笠弘雄公使参事官及び石川仙太郎一等書記官へUKM とのジョイント・ディグリープログラムについて説明した。また、日本とマレーシアの現在の状況や、マレーシアにおける日本の大学の動向などにつ

いて懇談した。



懇談する折笠公使参事官、森脇学長、鈴木理事



大使館での集合写真（左から野々村国際企画調整役、Nasharuddin Zainal UKM 准教授、沓水工学部教授、森脇学長、折笠弘雄公使参事官、鈴木理事、リム工学部教授、高田工学部大学院係員）

今回のマレーシア訪問を通して、今後、本学と UKM を含むマレーシアの大学との交流が更に活発になることが期待される。

第70回岐大祭を開催

岐大祭は、学生の研究、学術文化活動及び課外活動の祭典として、年間を通じた取り組みの成果を学内外に発表し、地域社会とともに考え、より発展させる機会を作る場であり、毎年、学生が自主的に企画・運営を行い、開催している。

10月25日(木)から10月28日(日)まで行われた第70回岐大祭は、天候にも恵まれ盛況のうち終了した。

今年の岐大祭のテーマは「**Finally**～平成史上最高の大学祭～」。これには「平成の終わりを象徴するかのように惜しまれながら引退されたあの歌姫のように、最後まで多くの人の心を弾ませたい。最後まで盛り上がり続ける岐大祭にしたい!」という思いから第70回岐阜大学祭全学執行委員会によって行われた。

岐大祭では、ステージイベント、お笑いライブ、屋内企画（作品展など）、フリーマーケット、大学農場で生産された農産物の販売など、多くの企画を学生主体で創り上げ、いつもとは全く雰囲気の違いが感じられる岐阜大学となった。

また、火事が起きた場合を想定して、岐阜大学防災訓練の体験の部としてスモーク体験も行われた。



岐阜大学よさこいサークルの踊りの様子



外国人留学生による模擬店販売



大学祭の様子



付属農場で生産された農産物の販売



園芸研究室による花卉の販売



防災訓練（スモーク体験）

岐阜大学地域協学センターと東京海上日動火災保険株式会社岐阜支店が地域活性化に向けた協働教育の推進に関する協定を締結

地域協学センターでは、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の実施支援機関として、次世代地域リーダーの育成に向けてインターンシップを核とした教育プログラムを実施し、地元産業界の課題解決へ向けた地域志向人材の育成を行っている。東京海上日動火災保険株式会社岐阜支店は、地方創生に向けた取組みを推進し、平成29年度から「岐阜県創生研鑽会」を実施し、岐阜県内企業と本学学生が協働し、岐阜県内の地方創生を目指した人材育成に取り組んでいる。こうした連携をより強固にするために、次世代地域リーダーの協働育成やリカレント教育の推進を目的として協定を締結した。

10月30日（火）に行われた協定書の締結式において、益川地域協学センター長は、「これまでも本学と東京海上日動火災保険との間での連携を進めてきたが、これを機により一層連携を深め、岐阜の地域で活躍する次世代地域リーダーの育成や、人生100年時代におけるリカレント教育の推進に寄与していきたい」と今後の抱負を述べた。児玉東京海上日動火災保険株式会社理事 岐阜支店長は「支店レベルで大学と人材育成に関する協働やリカレント教育に関連した協定を結ぶのは東京海上日動火災保険としても全国で初めてとなる。この協定を契機に永続的・継続的に連携を深め、地方創生にむけた人材育成に貢献していきたい」とコメントがあった。

地域協学センターと、東京海上日動火災保険株式会社岐阜支店は、本協定を締結することにより、これまで以上に連携を深め、岐阜県内の地域創生並びに岐阜県内において地域活性化を担う人材育成に努めていく予定である。



挨拶をする益川センター長



挨拶をする児玉理事 岐阜支店長



協定書を手にする児玉理事 岐阜支店長（右）と益川センター長

保育園児がハロウィンの仮装で学長室を訪問

10月31日(水)、ハロウィンの行事として、大学保育園「ほほえみ」、「すこやか」の園児の20人が仮装をして、学長室を訪れた。

元気よく学長室に入った園児らは、森脇学長や月山学長秘書に迎えられ、手作りのお菓子箱いっぱいにお菓子をもらった。

その後、保育園を所管している部署である人材開発部を訪れ、職員からもたくさんのお菓子をもらった。

園児らの笑顔あふれる、秋の楽しいひとときとなった。



学長室での記念撮影



森脇学長からお菓子を受け取る園児ら

2018年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催

10月31日（水）、本学サテライトキャンパスにて2018年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催した。

このコンソーシアムは文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」の事業目的に賛同した愛知及び岐阜県下の大学、地方公共団体、経済団体及び企業支援団体が連携し、留学生の国内就職支援事業を目的に、平成29年9月に発足した。

同コンソーシアムに参画している岐阜県内4機関（本学、岐阜県、岐阜県経営者協会、日本貿易振興機構（ジェトロ）岐阜貿易情報センター）の共催により、岐阜県内留学生と企業との相互理解を深めるために同ワークショップを開催したところ、企業、留学生、教育機関、企業関係者等あわせて103名が参加した。

第一部講演会では、岐阜県内4機関の代表として鈴木 文昭理事（国際・広報担当）・副学長からの開会挨拶の後、本学の同プログラムプロジェクトチームリーダーである森田 晃一日本語・日本文化教育センター長から、同プログラムにおける岐阜地区の取り組みとその目指すものについて、説明があった。続いて、本学 LEE HUIYUAN さん、岐阜経済大学 TRAN MINH DUC さん、中部学院大学 郭 天宇さん、中日本自動車短期大学 BHANDARI RAJENDRA さんから、それぞれ日本（岐阜）で就職したい理由、母国の就職活動の違い、就職後のキャリアプランなどについて、ざっくばらんな意見があった。次に、岐阜地区企業の事例紹介として、株式会社ユニオン豊田 政幸取締役 設計部長から、留学生の採用実績により、留学生の雇用についてどう考えているか、同会社設計第2部マルジュベン サイド氏から、日本で就職した経緯、キャリアプランなどについて、講演があった。続いて、中部学院大学学生支援部キャリア支援センター事務課岡野 寛樹係長及びホツマインターナショナルスクール後藤 一樹専任講師から、留学生の就職の取り組みと実態、将来へ向けての構想などについて、講演があった。第一部の最後に、企業側参加者を取りまとめた岐阜県経営者協会安藤正弘専務理事から、閉会の挨拶があった。

第二部では、小山 博之グローバル推進本部副本部長、嶋睦弘グローバル推進本部副本部長、川瀬真弓工学部助教、三輪真一工学部客員教授をファシリテーターに、企業、留学生からなる10名ほどの小グループの、ローテーションによる交流会を開催した。

参加した企業からは、「留学生の生の声を聞けてよかった。」「学生さんの疑問を聞けたので、今後の採用に役立てていきます。」「様々な国々の留学生と接触できて皆さんの就職に対する考え方を聞くことができ、とても良かったです。」などの意見が寄せられ、留学生からは、「学生と企業さんの交流会は短かった。」「いろんな意見や感想を聞いた。大変良かったと思います。」など大変有意義な時間を過ごした旨、感想があった。

同ワークショップは、岐阜地域留学生交流推進協議会※の枠組みを活用し、同プログラムの横展開を行いました。地域の国際化や経済の活性化に貢献するための発展につながる契機となった。



鈴木 文昭理事（国際・広報担当）・副学長の開会挨拶



講演会で発表する LEE HUIYUAN さん（工学部 4 年生）



講演会の様子



岐阜県経営者協会安藤正弘専務理事の閉会の挨拶



交流会の様子



交流会の様子

表彰受賞者

平成 30 年度環境大臣表彰 「廃棄物・浄化槽研究開発功労者」中央推薦 受賞

受賞者：守富 寛 工学部特任教授

演題：廃棄物・浄化槽研究開発

受賞日：平成 30 年 10 月 18 日

全国社会科教育学会 研究奨励賞 受賞

受賞者：田中 伸 教育学部准教授

演題：コミュニケーション理論に基づく社会科教育論

受賞日：平成 30 年 10 月 20 日

産官学連携の実施状況

○共同研究

(平成30年10月契約分)

部局名	研究代表者	企業等名
工学部	山本 秀彦	(株)インフォファーム
連合農学研究科	中野 浩平	岐阜県農業技術センター
連合農学研究科	中野 浩平	岐阜県農業技術センター

○受託研究

(平成30年10月契約分)

部局名	研究代表者	企業等名
連合創薬医療情報研究科	赤尾 幸博	東京工業大学
医学系研究科	清水 雅仁	愛媛大学
医学部看護学科	小林 和成	岐阜県後期高齢者医療広域連合
医学系研究科	下畑 亨良	徳島大学
医学系研究科	下畑 亨良	新潟大学
医学系研究科	下畑 亨良	岐阜市
医学部附属病院	小関 道夫	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
医学系研究科	大沢 匡毅	岐阜市
応用生物科学部	岩橋 均	国立研究開発法人産業技術総合研究所
医学系研究科	伊藤 八次	学校法人聖マリアンナ医科大学
科学研究基盤センター	須賀 晴久	かび毒動態解明コンソーシアム（代表：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）
医学系研究科	兵藤 文紀	九州大学
工学部	沢田 和秀	(株)浅沼組

メディア掲載一覧

○新聞

(平成30年10月分)

掲載日	新聞名	内容
10月1日	岐阜	岐阜の医療を考える「乳がん特集」 今すぐ検診で 早期発見→早期受診→早期治療 ～医学部腫瘍外科 二村 学 臨床教授～
10月1日	毎日	郷土愛 地域作りに注力 ～地域科学部卒 猪鹿庁長官 興膳健太さん～
10月1日	岐阜	◎エヌ・アイ・イーは今：生徒が主体的に考える 「p4c」の授業 車座になり対話，問題意識醸成 ～教育学部 須本良夫 教授～
10月2日	岐阜	本庶氏ノーベル賞 がん免疫療法発見 指導受けた県内研究者ら喜び「待ち焦がれていた」 ～医学系研究科 長岡仁 教授～
10月2日	岐阜	◎研究室から大学はいま：読者サイドの文学史構築 ～教育学部国語教育講座 小川陽子 准教授～
10月2日	中日	早田小を訪れあいさつ運動 岐阜大アメフト部 ～アメリカンフットボール部「ファントムズ」 吉見良太さん～
10月2日	朝日	色分けマップ 街の今見えた 岐阜駅前～柳ヶ瀬地区 大学生3人歩いて作製 ～浜野高志さん～
10月2日	岐阜	「改善」大賞を創設 岐阜大教授ら まちづくり活動表彰 ～工学部社会基盤工学科 高木朗義 シニア教授～
10月3日	中日	空き店舗，駐車場一目で インターン学生 岐阜市中心部色分け地図に ～2年 浜野高志さん～
10月3日	岐阜	研究成果のバトン 多くの患者へ がん治療薬「オプジーボ」 岐阜大病院がWG設置 ～医学部附属病院～
10月3日	読売	英語力5分で判定 従来テストと精度近似 ～地域科学部 牧秀樹教授～
10月4日	中日	枯れ葉剤被害 障害児らマラソン大会 一緒に走って支援 ～岐阜大学元教授 中村悟郎さん～
10月4日	朝日	あいさつ 岐大アメフト流 岐阜・早田小 ～アメリカンフットボール部「ファントムズ」 朝日章太さん～
10月4日	岐阜	大学生3人 空き家調査 岐阜市の市街地活性化計画区域 6日，成果報告会 ～2年 浜野高志さん～
10月5日	読売	市街地空き家、店舗 地図に 学生3人が調査、あす発表 ～2年 浜野高志さん～
10月5日	岐阜	◎ちほ先生が見た岐阜人の不思議③：だしの分岐点 関西と関東の中間の味 ～教育学部 大藪千穂 教授～

10月5日	岐阜	油彩や彫刻, 多彩な作風 岐阜大の美術工芸科卒業生 各務原市で作品展
10月5日	岐阜	複合材料の研究拠点に 岐阜大が「コンポジットセンター」開所
10月5日	中日	異分野連携し ものづくり 岐阜大の研究センターが開所
10月6日	日本経済	お小遣いもキャッシュレス 親; 使い道を簡単把握 子; ポイント還元、魅力 ~教育学部 大藪千穂 教授~
10月6日	岐阜	県議会一般質問: 避難情報伝達 岐阜大と研究
10月6日	中日	◎主役脇役: 話術の裏に地道な努力 岐阜大落研の「鶴飼家みりん」~教育学部4年 長屋美希さん~
10月7日	岐阜	膵臓・胆道センター設立 膵がん専門に診断・治療、国内初の施設 ~元岐阜大医学部附属病院勤務 安田一朗 富山大教授~
10月7日	朝日	あるもの活用 繁華街再生 柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社ブランド、その先へ 勝算あり ~工学部 出村嘉文 准教授~
10月8日	読売	◎ひゅ~まん岐阜: 柳ヶ瀬活性化へラボ ~工学部 出村嘉文 准教授~
10月11日	読売	遮断機なし 改善進まず 東海2か所 廃止・改修検討 ~竹内伝史 名誉教授~
10月11日	岐阜	大腸がん もっと知って 大腸がんは治せる時代に ~医学部附属病院 吉田和弘 病院長~
10月12日	中日	先進の秋休み 面白体験を 秘密基地やプログラム教室企画 ~尾崎浩巳 名誉教授~
10月12日	岐阜	"6頭"に鮮やか色つけ 親子, 牛のオブジェ制作 各務原市 ~応用生物科学部学生ら~
10月12日	中日	悪性化進める酵素の構造解明 がん治療薬 開発に光 岐阜大の木塚准教授ら ~生命の鎖統合研究センター 木塚康彦 准教授~
10月12日	中日	オプジーボ副作用情報共有 岐阜大 ~医学部附属病院 清島真理子 教授~
10月12日	中日	北海道地震被災者 受験料5年間免除
10月12日	岐阜	被災者受験料 岐阜大が免除
10月13日	朝日	岐阜大, 副作用対策へチーム がん免疫治療薬 部門横断で対応 ~医学部附属病院 清島真理子 教授~
10月13日	中日	児童ら学力向上へ 白川村と連携協定 岐阜大学部と文溪堂 ~教育学部 別府哲 学部長~
10月13日	岐阜	岐阜大, 白川村教委, 文溪堂 白川郷学園での ICT 連携協定 ~教育学部 別府哲 学部長~

10月14日	中日	発達障害の学生が働きやすい環境は 岐阜大がシンポ ～岐阜大サテライトキャンパス～
10月14日	中日	がん患者 歩いて支援 岐阜大で寄付募る ～医学部附属病院～
10月15日	中日	落語の青春 学生選手権「てんしき杯」 「恩返し」と一情熱家 奔走 ～落語研究会～
10月15日	岐阜	大腸がんの特徴最新治療を紹介 県図書館で公開講座 ～医学部附属病院 吉田和弘 病院長～
10月15日	日本経済	「半分、青い。」で頻発 「やってまった」 東濃の新方言？ ～教育学部 山田敏弘 教授～
10月16日	中日	落語の青春 学生選手権「てんしき杯」 自在の当て字 難読モノも ～落語研究会～
10月16日	岐阜	◎研究室から大学はいま：患者と協働，医療事故防止 ～医学部附属病院医療安全管理室 鶴川豊世武 准教授～
10月16日	岐阜	アクリル画，背景に焦点 野村：岐阜大教授が作品展 ～教育学部 野村幸弘 教授～
10月17日	日本経済	方言や風景 全国発信 東西交じるアクセント ドラマやアニメ舞台のモデルに ～教育学部 山田敏弘 教授～
10月17日	朝日	白川郷学園巡り学力向上へ連携 iPad 活用 産官学で ～教育学部 別府哲 学部長～
10月17日	日本経済	岐阜大，短時間で英語能力診断 ～地域科学部 牧秀樹 教授～
10月17日	中日	わなで効果的に獲物捕獲 獣害対策 岐阜大准教授ら助言 ～応用生物科学部 森部絢嗣 准教授～
10月17日	岐阜	第3期基本計画を説明 岐阜市中心市街地活性化協 ～「市中心市街地活性化協議会」会長 野々村修一 理事～
10月17日	中日	商店街関係者と行政が情報交換 岐阜市中心活性化協 ～「市中心市街地活性化協議会」会長 野々村修一 理事～
10月17日	中日	岐阜大学シティカレッジプログラム 【膝痛との上手なつきあい方】 ～医学部附属病院整形外科学分野 松本和 准教授～
10月17日	中日	発達障害児 連携ケア 医学，教育学部初の合同授業 ～医学教育開発研究センター 川上ちひろ 講師～
10月17日	岐阜	叙位叙勲 ～従五位瑞宝双光章 元岐阜大施設部長 西沢義雄さん～
10月18日	日本経済	食品の遺物混入防止策など学ぶ 県と岐阜大セミナー ～連合獣医学研究科 浅井鉄夫 教授～
10月18日	朝日	岐阜大が検定料免除 今後5年間

10月19日	中日	落語の青春 学生選手権「てんしき杯」 胸打つ物語の発信めざす ～落語研究会～
10月19日	中日	地方大学振興へ 岐阜など交付金 内閣府, 6県1市支援
10月19日	中日	ネット使い英語で議論 英の女子高生 10人×岐阜の中高生 20人 ～教育学部 田中 伸 准教授～
10月19日	岐阜	消費社会, 英語で白熱討論 英国の高校生とテレビ会議 ～教育学部 田中 伸 准教授～
10月19日	岐阜	皮膚がん兆候 見逃さないで 岐阜大教授ら4人が市民講座 症状や治療法を説明 ～医学系研究科～
10月19日	岐阜	◎ちほ先生が見た岐阜人の不思議③: ドラッグストア 商圈は約6000人で激戦地 ～教育学部 大藪千穂 教授～
10月20日	読売	岐阜県児童生徒科学作品展 中学校の部・最優秀賞 ～教育学部附属中学校3年 桜井竣悟さん～
10月20日	岐阜	防災知識, 外国人が発信 県内在住者増でリーダー育成へ 県が講座, 身近な備え議論 ～清流の国ぎふ防災・減災センター 小山真紀 准教授, 村岡治道 特任准教授～
10月20日	岐阜	岐阜大に整備「航空宇宙開発センター」 国から創生交付金 本年度7500万円
10月20日	岐阜	◎サタデーコラム: 細胞変化させ皮膚再生 ～医学系研究科 國貞隆弘 教授～
10月20日	中日	息の長い活動 昨年550回超 岐阜地域の異業種交流会「土曜会」
10月21日	読売	◎病院の実力 岐阜編 127: 乳がん 遺伝子検査 慎重に検討 県内唯一の認定施設 ～医学部附属病院 腫瘍外科学分野 二村 学 臨床教授～
10月22日	日本経済	◎窓: 半導体「アモルファスシリコン」 ～仁田昌二 名誉教授～
10月22日	岐阜	◎教えてホームドクター: 爪の色素線条 指1本だけ, 皮膚がんも悪性黒色腫の初期病変の可能性 ～医学部附属病院皮膚科 松山かな子 臨床講師～
10月23日	中日	工学部生 現場に飛び込む ～工学部機械工学科3年生150人・代表 関晶真さん～
10月23日	岐阜	◎研究室から大学はいま: 希少植物を栽培し特産化 ～工学部化学・生命工学科 竹森 洋 教授～
10月23日	岐阜	まちづくり題材 10日に公開講座 岐阜高専同窓会
10月24日	中日	大垣東高で岐阜大教授が授業 実験通し物質の性質紹介 ～工学部 桜田 修 教授～

10月24日	岐阜	三好学 植物採集の軌跡 歩いた道筋, 県内地図に朱書き ~応用生物科学部 石田 仁 准教授~
10月24日	中日	岐阜大の「地域粹」 医学部学生を激励 知事らが交流会
10月24日	中日	岐阜大・牧教授が「リスニングテスト」 英語能力5分で測定 研究16年の成果, 書籍に ~地域科学部 牧 秀樹 教授~
10月25日	中日	落語の青春 学生選手権「てんしき杯」 世界観揺るがすアートに落語とマジック ~落語研究会~
10月25日	岐阜	大野の柿 留学生が収穫 岐阜大の25人 体験 ~連合農学研究科生物生産科学専攻3年 ユリ・ヤンティさん(インドネシア出身)~
10月26日	日本経済	地域活性化へ 「協働教育」推進 岐阜大と東京海上が協定
10月26日	中日	能の観世流シテ方 抑揚を効かせ実演 ~観世流シテ方 味方團さん(岐阜大で留学生を対象に能の授業を担当)~
10月27日	岐阜	英語の多様性楽しく紹介 武儀高で岐阜大准教授が講座 ~教育学部英語教育講座 仲潔 准教授~
10月27日	岐阜	◎サタデーコラム:「叱る」価値観再考を ~教育学部 春日晃章教授~
10月28日	中日	「祭り」や「農産物」 岐阜大生らが討論 まるごと環境フェア
10月28日	中日	一宮の学生 北アで遭難 低体温症か, 連絡取れず
10月28日	岐阜	地元企業の魅力発見 岐阜市で業界研究フェア
10月29日	岐阜	濃尾地震 犠牲者悼む 127年, 法要と記念講演 防災意識新たに ~清流の国ぎふ防災・減災センター 杉戸真太 特任教授~
10月29日	中日	遭難岐大生救助 北ア槍ヶ岳 ~工学部2年生~
10月30日	岐阜	毛利衛さんに研究発表 無重力などの環境, 岐阜市で応用学会 全国の学生ら集結, 成果示す ~工学部 高橋周平 教授~
10月30日	岐阜	東京商議所「eco 検定アワード」 エコユニット部門 岐阜大奨励賞
10月30日	岐阜	◎研究室から大学はいま: 老いを予防し健康長寿に ~科学研究基盤センター嫌気性菌研究分野 楊 馥華 特任助教~
10月30日	中日	主権者教育のあり方 若者選挙組織が講演 岐阜で推進大会 ~小栗優貴(岐阜大学卒業生)~
10月31日	産経	家計簿 スマホでも手書きでも 自分に合ったスタイルで賢く 消費税アップ前に ~教育学部 大藪千穂 教授~
10月31日	中日	落語の青春 学生選手権「てんしき杯」 体育会への負い目なし 「文科系ですけど, 何か?」 ~落語研究会~

10月31日	岐阜	知事 アジア訪問へ 7～14日 中国, 香港, ベトナム知事 アジア訪問へ 7～14日 中国, 香港, ベトナム
10月31日	岐阜	健康フォーラム 腰痛の最新の知見と治療 生活に役立つ「腰痛と上手に向き合う方法」
10月31日	岐阜	東海海上日動支店と岐阜大 人材育成で協定 学び直しやインターン ～地域協学センター 益川浩一 センター長～

○テレビ・ラジオ・雑誌等

(平成30年10月分)

放送日	番組名	内容
10月1日	ぎふチャン 17:40～ 「お茶の間ステーション 2時6時」	『減災ラジオ』 流域圏科学研究センター 久世益充 准教授
10月8日	ぎふチャン 17:40～ 「お茶の間ステーション 2時6時」	『減災ラジオ』 「防災士の活動と現状」 清流の国ぎふ防災・減災センター 西田重成 コーディネーター
10月29日	ぎふチャン 17:40～ 「お茶の間ステーション 2時6時」	『減災ラジオ』 「濃尾地震に学ぶ」 清流の国ぎふ防災・減災センター 杉戸真太 センター長

◇第6回 岐阜大学グローバル推進本部会議

10月1日（月）

（議事）

1. フェ大学（ベトナム）との大学間学術交流協定の締結について

◇第632回 役員会

10月4日（木）

（議事）

1. 北海道胆振東部地震により被災した志願者に対する特別措置（入学試験の検定料免除）（案）について

◇第633回 役員会

10月11日（木）

（議事）

1. 平成31年度分教員人事について

◇第7回 部局長・部長会

10月11日（木）

（協議事項）

1. 新学部を設置及び地域科学部に関する役員懇談会の方針に対する部局長・部長会での 検討結果（案）について
2. 東海国立大学機構（仮称）について

◇第7回 教学委員会

10月16日（火）

（審議事項）

1. 平成31年度学年暦（案）について（継続審議）
2. 岐阜大学教養科目に係る「大学以外の教育施設等における学修」の単位認定に関する取扱細則改正について
3. 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について
4. 日本語科目及び日本事情に関する科目の充当について

◇第634回 役員会

10月18日（木）

（議事）

1. 平成30年度教育職員関門評価（案）について
2. 平成30年度分教員人事について
3. 平成31年度分教員人事について

◇第174回 教育研究評議会

10月18日（木）

（審議事項）

1. 地域科学部の学位授与に関する教育研究評議会の方針について
2. 新学部を設置及び地域科学部に関する方針について

◇第635回 役員会

10月18日(木)

(議事)

1. フェ大学(ベトナム)との大学間学術交流協定締結について

◇第636回 役員会

10月25日(木)

(議事)

1. 教育職員雇用申請について
2. 平成31年度分教員人事について

◇第6回 入学試験専門委員会

10月31日(水)

(審議事項)

1. 医学部医学科推薦入学Ⅱ特別入試選抜基準の一部改正(案)について
2. 工学部3年次編入学試験における募集人数の変更について
3. 【継続審議】平成33年度(2021年度)大学入学者選抜(案)について
4. オープンキャンパス2019の日程(案)について
5. 個人成績の開示について

主要日誌

月 日	行 事 名
10/ 3	献血
3	運営委員会
3	Guコンポジット研究センター開所式
4	役員懇談会
4	Tongali人材創出セミナーin岐大
4	病院運営会議
5	東海・北陸地区国立大学法人等部課長会議
6	教育学研究科入学試験
6	入学式・在学生ガイダンス
7	教育学研究科入学試験
10	教学委員会 教育学部
11	役員懇談会
11	部局長・部長会
15	病院科長会議
16	病院運営会議
16	研究科委員会 連合創薬
17	研究科委員会・教授会 教育学部
18	役員懇談会
18	教育研究評議会
19	岐阜大学産学連携フェア2018 inものづくり岐阜テクノフェア2018
19	代議委員会 連合獣医学研究科
23	医局長等合同会議
25	役員懇談会
28	岐阜大学公開講座「大学生と学ぶ恐竜教室」教育学部
31	経営企画会議